

平島におけるドブネズミ対策実施状況（小笠原村）

1. 目的

近年、生息数が激減しているオガサワラカワラヒワの繁殖地である平島において、ドブネズミによるオガサワラカワラヒワの繁殖阻害リスクを低減し、オガサワラカワラヒワの保全に寄与するため、ドブネズミ根絶を目指した対策を実施する。

2. 対策状況（2022/11～2025/1）

これまでの主な対策状況を表 1 に示した。以下、詳細を示す。

表 1 対策状況（2022/11～2025/1）

内容	2022年		2023年												2024年												2025年
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
殺鼠剤散布	平島手撒き																										
	平島BS																										
	丸島・二子島手撒き																										
	丸島・二子島BS																										
モニタリング	平島ネズミ																										
	平島オガヒワ																										
	丸島・二子島ネズミ																										
	平島土壌成分分析																										
合意形成	住民説明会																										

※1 オガサワラセリ配慮エリアのみ先行して BS 散布

※2 急傾斜地のみ手撒き散布：紙パックにスローパック（紙パック 1 個あたり 100g 程度）を入れて投下

※3 丸島・二子島のセンサーカメラを SIM カメラに変更

（1）殺鼠剤散布状況

- 平島では、令和 4（2022）年 12 月から殺鼠剤散布を開始した。令和 7（2025）年 1 月末までに全域散布を手撒きで 2 回、ベイトステーション（以下、BS）で 6 回実施した。現在、174 基の BS が稼働中。
- 平島小属島（丸島、二子島）及び離岩礁では、平島へのネズミ類再侵入防止のため、丸島では令和 5（2023）年 11 月 30 日、二子島では 12 月 4 日から殺鼠剤散布を開始した。令和 7（2025）年 1 月末までに全域散布を手撒きで 1 回、BS で 3 回実施した。現在、28 基の BS が稼働中。
- BS 散布では殺鼠剤のカビ予防のため粒剤をコーヒー袋に封入している。甲殻類や昆虫類等による破れがみられるものの、粒剤を直接充填する場合と比較して、カビの発生を低減出来ている。一方、破れない場合は 4 か月以上カビは発生せず、充填時と同様の状態が残る状況もみられており、予防効果が顕著にみられている（写真 1）。



（2）ネズミモニタリング結果

1) 平島のネズミ撮影状況

- 平島では、令和 4（2022）年 12 月に島内全域に 20 台のカメラを設置し、ネズミモニタリングを開始した。現在、計 27 台のカメラでモニタリングを継続している（図 1）。
- 令和 4（2022）年 12 月 24 日から令和 5（2023）年 10 月 2 日までの約 10 か月間、ネズミは撮影されなかったが、同年 10 月 2 日から 10 月 15 日までの約 2 週間、3 台のカメラで広範囲にネズミが撮影された（図 2）。その後、令和 7（2025）年 1 月 14 日までネズミの撮影はない（図 2）。

写真 1 コーヒー袋内のカビ発生防止状況（丸島：2024/9/4～2025/1/15）

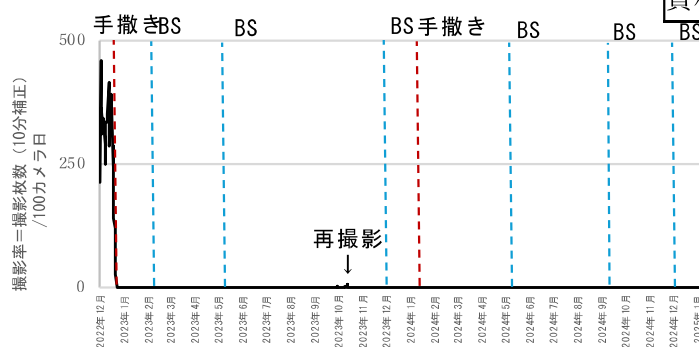


図2 平島のネズミ撮影率 (2022/12/3～2025/1/14)

2) 丸島・二子島のネズミ撮影状況

- 令和5（2023）年11月1日に二子島3台、11月2日に丸島2台のカメラを設置した（図3）。
- 令和6（2024）年5月14日に二子島、5月15日に丸島で設置していたカメラを自動画像送信機能付きカメラ（以下、SIMカメラ）に交換し、遠隔モニタリングを開始した。9月4日の点検時、カメラ前へのネズミの誘引を長期間持続するため、カメラ前に人工水場を設置した。
- どちらの島も令和5（2023）年の散布5日後から令和7（2024）年1月15日までネズミの撮影はない（図4）。ただし、二子島で11/16～1/15の期間がカメラ不具合により2台のみ稼働となっており、同様に丸島で11/22～1/15の期間がカメラ不具合により1台のみの稼働となっている点に注意が必要である。



図3 丸島・二子島のカメラ設置地点

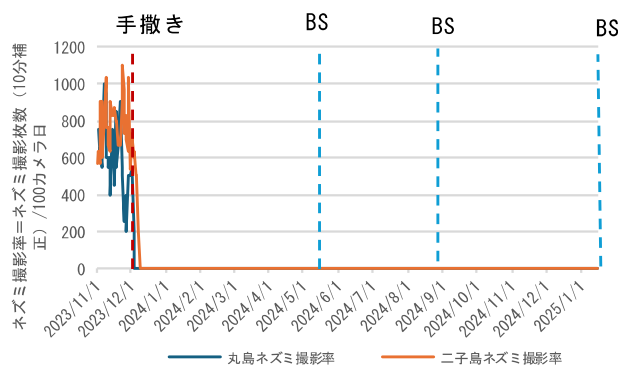


図4 丸島・二子島のネズミ撮影率 (2023/11/1～2025/1/15)

3. 今後の対策予定

- 令和6（2024）年度は、平島でBS散布を1回（3月）予定している。その際、これまで全てのBSに誘引剤（煮干し）を設置していたが、長期間の稼働を見越し、誘引剤（煮干し）は劣化するため、カメラ前のBSにだけに煮干しを入れる予定である。
- 今年度中に今後のネズミ監視・検出体制等の方針を取りまとめ、環境省に引き継ぐ予定にしている。現在のところ、モニタリング作業の省力化のため、平島のカメラを27→20台に減台し、そのうち3台をSIMカメラに交換予定としている。次年度は、他機関（林野庁）のオガサワラカワラヒワモニタリング用カメラも含めて1台/2haの状況を維持する予定である。

- 令和 7（2025）年度は、令和 7 年 1 月のネズミモニタリングでネズミが確認されていないため、B S 散布は休止することを検討している。ただし、令和 7 年 3 月に B S 散布予定のため、令和 7 年度途中までは稼働する。
- 令和 7 年度以降の平島及び小属島のネズミモニタリングは環境省で実施する。また、ネズミが再確認された場合の B S 散布、高密度化した場合の手撒き散布についても、環境省が主導し実施する。